

第二回運営協議会報告書

報告年月日 28年12月17日(土)

報告者 齊藤 富美子

1. 用務	第1回運営協議会			
2. 日時	平成28年12月17日(土)			
3. 会場	アイーナ6階 講師控室1・2			
4. 参加者	県企画室 菊池 宏明	主任主査	センター 野澤 日出夫	センター長
	県企画室 池田 享司	主査	センター 佐々木 CH	副センター長
	運営委員 中島 清隆	委員長	センター 櫻井 則彰	事務局長
	運営委員 加藤 直子	委員	センター 齊藤 富美子	センタースタッフ
	運営委員 鈴木 満	委員		
5. 議事	第2回運営協議会開催			
	<p>●事務局長開会の挨拶</p> <p>●野澤センター長挨拶(挨拶文添付参照)</p> <p>開催にあたり両センター長挨拶</p> <p>本日は、暮れも押し迫り皆様ご多忙の中を、遠路からもご参集いただきまして有難うございます。本日は協議会委員5名のうち、県南地域の委員が人事異動により委員を退任されて一名欠員のままの開催となりました。また県北地区の委員であります生田委員は出席の予定でありましたが、やむ負えない事情が生じて、残念ながらご都合がつかず欠席となりました。生田委員のご意見は事前にお伺いしております。また、加藤委員におかれましては、体調の優れない中をまげてご出席いただき恐縮に思っております。有難うございます。</p> <p>両センター受託団体であります「環境パートナーシップいわて」はこの度「認定NPO法人」として認定されました。これを機に気を引き締めて一層信頼されるセンターとして取り組んで参る所存であります。特にそれぞれの活動における安全性については、事前にリスクチェックを行い、スタッフ全員で、最終的には代表であります私まで含めて、多くの目で確認しつつ安全を喫しており、本年も事故無く推移しております。</p> <p>本日は評価期間、4月～10月末までですが、資料は11月末までの実績を載せております。センター運営に関しましては、県の仕様書に基づいて実行しておりますが、その進め方含めて、以前にもお話いたしました「MG委員会」(Management&Governance Committee)を設けて確認しつつ進めております。</p> <p>今期は目標通りに進められたこともありますが、例年通りの活動に終始して改善が出来なかった事や、計画がずれ込んでいることなど反省点も多くあります。</p> <p>また、県内夫々の地域の事情や特性を生かして、全県的な活動とすべく、4つの県広域振興局との連携を強めた活動を意識してきており、今後も一層強化して参りたいと思っております。</p> <p>当運営協議会では、皆様の忌憚のないご意見を大小に関わらず頂戴いたし、今後の両センター活動の改善の機会と致したく思っております。本日は宜しくお願ひ致します。</p> <p style="text-align: right;">野澤 日出夫</p> <p>●両センターの運営状況評価について</p> <p>県環境生活企画室池田主査より説明</p> <p>両センターの評価については適切かつ円滑に管理運営がなされているかどうかという観点で評価するものです。4月1日～3月末の一年間を評価する。</p> <p>今回10月末を中間評価、年度末の最終評価で進めてまいります。</p> <p>資料3が評価シートになりますので今後記載していただく流れとなります。</p> <p>これらを踏まえまして評価を行っていただくこととなりますが、1週間前に資料を送付してい</p>			

ただいておりますので内容についてはご確認していただいていると思いますが、さらに本日の報告を受け評価をして頂きます。A・B・C・Dの内容に沿って評価をして頂くこととなります。より良いものをセンターさんとやっていきたいと考えておりますのでよろしくお願い致します。今後運営委委員の方からの評価を踏まえて県で最終評価をさせていただくこととなります。両センターの委託が3年間で今年が3年目となりますので併せて考えていきたいと思っております。

委員の肩書の変更・追加記載について依頼あり

中島清隆委員：岩手大学人文社会科学部准教授

NPO 法人 ASIA Environmental alliance 代表理事

鈴木 満委員：認定 NPO 法人こころの架け橋いわて理事長

岩手医科大学非常勤講師

外務省診療所メンタルヘルス・コンサルタント

加藤直子委員：釜石国際交流協会事務局長（変更なし）

生田弘子委員：カシオペア環境研究会 理事

議長：両センターの業務実施状況について説明をお願いします。

●両センターの業務実施状況について齊藤より活動の様子を PP にて報告（資料5）

●両センターの業務内容説明櫻井より資料に沿って読み上げ（資料1）

議長：委員の皆様から意見質問ありましたらお願いします。

加藤委員

・4月の環境学習講座について高校生が発表した経緯について

新聞の記事で高校生の活動が最優秀賞をとったことを知り是非センターでも発表をお願いしたいということで講座講師として依頼した。講座の中では実際にペットボトル苗を植える体験も行い高校生の活動を一般の方に知っていただく良い機会となった。

・雫石高校が訪問学習で来館することになった経緯

授業の一環として来館された。卒業記念の一環で先生がキャンドル作り体験をさせたいということでセンターを選んでいただいたようだ。

加藤委員

・どうやって知ってセンターを選んだのか？

齊藤

・HPの情報源を基に選んでいた。

加藤委員

・高校生は温暖化の勉強もしているし、地球環境の勉強もしているし、キーパーソンじゃないかと思う。意見も言えるし、センターに来てくれることはありがたいな~と思うのです。選んでもらうためにはHPやチラシとかを通してアピールするのは大切だなと思う。ただ残念なこと盛岡近周辺に限られる。

・今年度まで釜石高校がスーパーサイエンススクールだった。それを何か利用できないかな~と思って考えていたが、子供と高校生のコラボレーション、沿岸は津波という悲劇があったのでなかなか海によりつけないけれど海に着目するのも大切かなと思います。広がりが見えてきているので是非これからもアピールを続けてください。

鈴木委員

・いつも感心しています。学際的で国際的、さらに平時のみならず有事にも配慮した実践体験型の科学学習推進プロジェクト、壮大なプロジェクトで感心しています。継続していることが素晴らしい。10年続けていってしゃることで次世代育成のモニターとなるのが大事ななと思います。毎年申し上げていますが、これだけプロジェクトが広がると負担も大変なので一つの柔軟的なプロジェクトのために少し時間をとっていただきたいという思いがあります。今おそらく余裕が人員的にも予算的にもないのではないかな。ある程度選択と集中の時期。

・とりわけさっきの（PPの映像）積み木はすごいですね！！ああいう子供を見つけて、岩手県のみならず日本の科学的な才能のある子を応援していくというのも大事ななと思います。あ

これはあの時一回で終わると「小さいころすごいことやったね」で終わるが、おそらくあれだけのことをする子たちは才能が眠っている。賞を作ってあげるとか、また来年もいらっしやいかいという仕組みがあったらいいのかなと思いました。場を提供することは素晴らしいことだなと思います。最初のいわゆる交流という名前ですが、実質的には広範な体験型学習提供、素晴らしい事業なので是非長期的な展開をお願いしたいと思います。

・余談ですが、震災支援の話です、ニューヨークのマンサージャ病院の話ですが、2001年の震災の長期支援を行っている。行政の支援がついたという話があって何年ついたのでかとか聞いたら seventeen と聞こえたので17年ですか？と聞くと実は seventy だった。70年という長期的な支援、もちろんモニターされますが、それほど厳しいモニターではないようです。一年一年認められ更新するわけですが、世代をまたぐわけですから、1世代25年と考えたら50年くらいの支援は必要だなと思います。それに向けての10年は大変な努力があったと思いますし、成果を上げているのだなという印象を持ちました。

・一方温暖化ということは大変大きなテーマではありますが、おそらく温暖化以上にいろんなことが発生してくるのかなと思います。温暖化という切り口ではなく、地球を見る、地球全体の発想ということなので、もうちょっと広くてもいいのかなと思います。次の10年を考えると温暖化以外にいろんなネガティブなことが発生する可能性もありますし、その発想が10年前の世の中の動きと今どうなのかなということを感じています。例えば自然環境全般ですよ、温暖化のみならず。どういう風に地球が動いているのか、地球温暖化だけではなく幅広く考えていくというセンター業務、運営があるのかなと思います。これは一般の方々に向けての啓発教育キャンペーンですね。学習という手法は同じだけど対象が違う。より地球規模でなおかつ実務的な教育よりも環境を守ろうという実務的なプロジェクトだと思う。大きく次世代育成の事業と現場の大人達がなにをすべきか、ということに、目を開いて、事実を見て考えていく。これはある意味リスクコミュニケーションにも関係して、例えば事件、事故が起きるときに情報をどれくらい正確に発信するかだけでなく、受け手のリテラシーいわゆる環境リテラシーが届かないといくら正確な情報を流してもコミュニティーとしての機会にならないし、ポピュリズムになっちゃうと、人気のある声の大きい人がリーダーとなってしまふ。科学の理解を持ったリーダーを目立てることが大事だと思います。

リスクコミュニケーションができる、発信できて、受信ができて、講座にうつせるようなそういう意義ある発想だなともいます。二本立ての環境のエンド性←運動性が一つのポジティブな発想だなと思います。

加藤委員

私も感銘を受けたのですが、いわゆる環境問題、地球問題に意識を持った人がなかなかいない。特に私の地域では現れてこないのがジレンマで、地球温暖化対策地域協議会を立ち上げてなかなか人が集まらない。それよりは先に経済的に潤うことが大事ではないかという。金にもならないことを話し合ってもという感じで環境リテラシーにまでいたっていない状況を目の当たりにすると「これからどうしたらよいんだろう」という風に思う。県内に15か所の地域対策協議会があるのですか？それはすべてうまく活動しているのでしょうか？

佐々木チーフ

地域対策協議会の運営もそれぞれで、うまくいっているところもあればそうでないところがある。地球温暖化地域対策協議会の情報・意見交換会を開催して他市町村の事例などを聞いて参考にしてもらおうなどしている。今回は推進員にも参加していただきより活発な交換会となった。

加藤委員

私のところでは温暖化本当なの？と疑問が出てきたところに津波があってメンバーの中にそれどころではないでしょという感じになった。私自身もスイスの山脇さんのお話を聞いた時に温暖化してないよ、クーリングしているよという話を聞き、どっちが本当なのと正直思ってしまう部分がある。だけどCO₂を出しているのは人為的なものが多い、それはやっぱりよくないんだよと聞き直って、CO₂を出さないように働きかけはするけれどもクーリングでしょ、いやいやウォーミングでしょとちょっと聞き合っています。地域対策協議会も再開するところまで至っていない苦しい状態です。(注：山脇さんの講演については解釈の違いがあると

思うのですが・・・齊藤が以前聞いた講演では、そこに到達してみないとわからないでしょといういい方でしたが・・・)

野澤代表

山脇さんの講演ではあの後に続く言葉がなかった。今、気温が上がっているけどまだ枠の中にとどまっている。CO₂ははるかに突き抜けているが、温度もそれに同調するように上がっている。今後どう気温が変わるかというのはわからない。この枠内にまだあるけれどそれでも恐ろしいことが起きている。

加藤委員

野澤先生がよく例で出される「ゆでガエル」。知らないうちに湯であがるかもしれないということを実際に考える機会もないし、考えようとするほど余裕もない。釜石に年4回も来ていただき人を集めて「何か皆さんで一つやってみましょうよ」と声掛けもしていただいているのに何も進展していなくて申し訳ない気持ちです。

中島議長

今後の両センターの運営についてお願いします。

佐々木チーフ

資料参照・PPで説明

中島議長

今後の両センターの運営について委員の皆様より何かご意見はありますか？

加藤委員

大変なことで、何とも大丈夫でしょうか？皆さんが……。なんでそう思うかという今年釜石の甲子公民館に来ていただいて出張環境学習会で牛乳パックからはがきを作るという紙漉き体験を行ったのですが、いつもなら私は知らないでいるから参加しないはずでしたが、前の運営委員会で「近くに来るときは教えてくれれば行くのに」といったために連絡がきたと思います。そこでちょっと顔を出すつもりで行ったのですが、60人の子供たち一人一人がはがきを作る。ミキサーにかけて紙を漉いてそのあとアイロンをかける。ところが一年生から6年生までごちゃごちゃ、ごちゃごちゃしていてアイロンを任せられない。スタッフが紙漉き一人、アイロン一人、これはとっても危険だと思いアイロンがけを行った。「これは大変なことだ！」帰りに運転して帰れるのかと思いました。本当に大変な作業でした。活動の底辺にある子供たちの啓蒙活動みたいなもので疲れてしまわないだろうかということが一つ。そういう時に近隣のアドバイザーに声をかけていただいてアドバイザーとしてとかではなく、環境問題に興味を持っている人が、ちょこっとお手伝い、顔出しなどしていただくなど協力体制をつくれれば少しは皆さんの活動が助かるのではと思いました。今、今後の運営をお聞きして、あっち行ってこっち行ってシンポジウム行って、ここで海岸林植樹してでは体一つでは足りないなと思いました。大事なお仕事をなさっているので疲れて尻切れトンボになってしまうことがないようにできるだけ手伝える人の力をお借りすることも考えてはどうでしょうかと思いながら今後の運営についてお聞きしていました。

その中からいいよ、手伝うよという人が出てくれば少しづつですが、環境に対して興味が出てくるのではないかなと思いました。

野澤代表

センター内で提案しているのは、いろんなところにいろんな方とお付き合いがある。その方たちを全部リストアップして地域別にどういふ方がいるかを整理して、その地域の人たちにお知らせをする。ご協力していただける方いますかということで手を挙げていただく。そういう中でいろんな事業がやっていければいいなと思っているところです。

加藤委員

是非お願いしたい、ミキサーを使ったり、アイロンを使ったりするのは事故が起きかねないし、それこそヒヤリハットのもとになりかねないのでそういう方たちのお力をお借りするのがいいかなと思います。

鈴木委員

具体化と行政・地域二連携という大方針ですよね。それは賛成です。

	<p>連携自体にもエネルギーを使うので少しスリム化というのも大事な課題かなと思います。大変意義のある、今日は県のオブザーバーも入っていますが、振興局のみならず県の大きな構想につながっていますので県のまとも聞きたいなと思いました。</p> <p>人口減が極めて深刻。環境の変化と、人口の変化この二つをどう考えているか、温暖化のみならず今後必ず地震が起きるのであろう。ここも現実的に大きな環境学習のテーマかなと思います。もうすでに盛り込まれているようですが、それも含めて今後の方向性については意味のある内容を聞かせていただきました。</p> <p>池田主査</p> <p>環境学習交流センターの業務自体については毎月センターと調整しています。もう一つ、連携というのは非常に大事なので今年業務の中にも入れさせていただいておりますが、当然エコクラブについて環境保全団体となかなかうまくコンタクトが取れていないようです。そういったものを今年、来年にかけて整備し、まさにネットワークを作って、そういった方々が地域の活動にも声掛けできるようになって環境の活動が広がっていくということになれば、おっしゃる通りセンターの負担も少しずつ軽くなっていくでしょうし、地域が育っていくのかなと思っています。そういったところについては我々も非常に大事なことだと思っております。局も絡めながら流域も含めて今後もスクラップアンドビルドがうまくいけばそういったことを含めながらやっていきたいと思っていますところ。</p> <p>鈴木委員</p> <p>私も認定NPOを運営していますが、なかなかその認定NPOの存在価値というか、あるいはその寄付の仕方とかうまく浸透しない。実は認定になると税制上メリットが多いことも周知されていない。自分から周知するのも難しい。県の認定ですから県でも制度的な認知を勧めさせていただくことも必要かなと思います。私どもも事情を抱えています。</p> <p>池田主査</p> <p>環境生活部の中に若者共同推進というNPOを担当している部署があり、環境パートナーシップいわてさんも来ていただいて相談を受けたりしていた。認定NPOの重要性今までも勧めましたがより一層今後もさらに広く勧めるよう担当部署に申し伝えておきます。</p> <p>中島議長</p> <p>今後の両センターの運営に期待していただきますよう岩手県の担当部局、並びに受託団体環境パートナーシップいわてにはお願いして終了といたします。</p> <p>10年というそれなりに長い歴史で続けて育まれた事業、内容が毎年リニューアルしながら新たな展開、方向性で訪問されたりして新たな展開が出始めている。続ける事、新しくしながら続けることの効果とか成果が出始めているのかなということ。その一方で連携も労力を使うことですので担当するスタッフの負担をいかに減らしていくか、組織のスリム化(事業のスリム化ではないかと思うのですが)も併せて、協力していただけるところと理解、連携を図りながらお互い助け合っていくことの大事さ、その両立が求められるのかなということです。今日特にお伺いして感じたところです。</p> <p>評価の結果は平成29年1月10日までに提出</p>
6. 特記事項	無し
7. 概要・所感	<p>1名欠席となり運営委員3名での運営協議会開催となりました。これまでの活動に対しての具体的なご意見アドバイス等をいただくことができました。二つのセンターを運営することの大変さと重要性などご理解をいただくことができ感謝しているところです。ただ、今後より良いセンター運営にするためには環境保全団体との連携などさらに細かい業務が増える事も予想される。人員体制・業務の見直しなど具体的に策を考えなければいけないのではと感じた。</p>